

2017年2月14日

福島みずほ事務所 御中

日本原燃株式会社

ご質問への回答について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2月13日付けにてご質問を頂きました件につきまして、別添のとおり回答いたします。

敬具

(お問い合わせ窓口)

日本原燃株式会社 東京支社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号  
日比谷国際ビル

TEL : 03-6371-5800

FAX : 03-6371-5808

別添

## 5. 再処理事業に関する質問

① 再処理等拠出金法が施行になって再処理事業者として、具体的に変わったことは何ですか。

A. 拠出金対象事業の委託元が電力から機構に変わったが、業務を遂行する上では、これまでと何ら変わりはないと考えている。引き続き安全確保を大前提に、業務を遂行してまいりたい。

② 一昨年(2014年)の12月から減容化処理が行われていた再処理工場で出る雑固体廃棄物について、昨年(2015年)11月までに2,708本行われたという数字を聴いています。六ヶ所村では、以前から高レベルガラス固化体の一時貯蔵施設で既に行われており、1,808本だったそうですが、この数字は事実ですか。

A. 2015年12月から2016年11月までに再処理工場で発生する雑固体廃棄物の減容化処理の本数は公表しておらず、2708本については承知していない。

なお、県・村との安全協定において、減容化処理した雑固体廃棄物を含む貯蔵本数を報告している。

③ 焼却処理の際の排出される煙などに含まれる放射性物質を含む有害物をフィルターで、どの程度除去できるのでしょうか。また、それを示す根拠となる実験データなどがありますか。

A. 焼却処理の際の排煙は、廃ガス洗浄塔での洗浄・冷却、凝縮器での冷却および高性能粒子フィルタでのろ過を行っている。高性能粒子フィルタは粒子除去効率を検査している。

④ 再処理工場で出る雑固体廃棄物の減容化処理では、現在、どのような処理方法が行われていますか。また、減量化でどの程度の効果があがっていますか。数値があるならば数値でお答えください。

A. 再処理工場で発生する雑固体廃棄物の減容化処理方法としては、可燃性の雑固体廃棄物は焼却処理、難燃性・不燃性の雑固体廃棄物のうち、減容可能なものは圧縮減容処理を実施している。

減容処理の効果は雑固体の性状等により異なるため、定量的には説明できない。

⑤ 日本原燃と使用済燃料再処理機構の間で公に取り交わされている事業契約の期間はいつからいつまでのスパンですか。

A. 再処理工場の廃止措置が完了するまでの契約としている。

以上